

### 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0191500214		
法人名	医療法人社団 森生会		
事業所名	グループホーム 温もりの家 銀杏ユニット		
所在地	北海道茅部郡森町字上台町330番地の12		
自己評価作成日	平成24年7月31日	評価結果市町村受理日	平成24年10月19日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>1、当事業所の運営母体である森の里病院が隣接しており、日頃から入居者様の健康状態等について看護師や先生に相談して指示を受けている又、緊急時には直ぐに先生が駆けつけ診ていただける体制が出来ている。</p> <p>2、当事業所には常勤の栄養士、看護師が勤務しており、食事に関しては栄養士が栄養のバランスがとれた献立を作成し味付けにも気を配り食事を提供している。</p> <p>健康面の管理は看護師が毎日入居者様の健康チェックを行っている。</p> <p>3、当施設周辺には緑が多く春には桜を見に出掛けたり、秋は紅葉を楽しむことが出来たりと四季の変化を感じられる環境となっている。</p>
--

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2011_022_kan=true&amp;JigyosyoCd=0191500214-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2011_022_kan=true&amp;JigyosyoCd=0191500214-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人北海道社会福祉協議会		
所在地	〒060-0002 札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成24年8月22日		

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>運営法人が医療機関で、併設のグループホームと共に隣接している。昨年2軒目のグループホームとして新設された当事業所は、市街地から離れた自然豊かな所にあり、今回が初めての外部評価である。玄関の両側が各ユニットの食堂で、建物の中央が事務室と中庭となっており、囲むように廊下と居室が並んでいる平屋造りの事業所で、裏手に利用者が憩うことができるテーブルとベンチが緑の木々と芝生の中にある。職員は介護の未経験者もあり、3ヶ月間の新人研修では充分とはいえないところもあり、研修会には積極的に参加して研鑽をつんでいる。今後、管理者と職員が一丸となりサービスの質の向上に取り組むことを期待する事業所である。</p>
---

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない			

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I.理念に基づく運営</b>						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスに関する運営規定等カンファレンスの都度スタッフで確認したうえで施設理念である社会貢献、思いやり、笑顔を念頭に業務にあたっている。	「社会貢献、思いやり、笑顔」を理念とし、玄関フロアや事務所に提示しているが、その理念の基礎となる地域密着型サービスの意義、役割について職員間共有にまでは至っていない。	理念を掘り下げて、地域密着型サービスの意義、役割を考えて職員全員で確認し、共有して実践に繋げることを期待したい。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設でおこなう行事には地域のボランティアの方や飲食店の方に協力を依頼し地域の方と触れ合う機会を作っている。	母体医療機関と隣接のグループホームとの合同で実施する秋祭りには地域住民の来訪があり、誕生会にはボランティアの訪問がある。町内会に加入しており、町の祭りに出向くなど、地域との交流に取り組んでいる。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々からの相談を受け付ける体制にないが、入居されているご家族の方に対し面会時等の時に認知症の症状等についてお話をさせて頂いている。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では行事や研修の報告をおこなっている。今後は積極的に意見や改善点等求めサービスの向上に役立てたい。	運営推進会議は包括支援センター職員、町社会福祉協議会職員、地域住民、家族が参加して開催している。行事や活動の報告などを行っているが、2ヶ月ごとの開催には至らず会議録の記録も整っていない。	今までは、隣接のグループホームと合同で実施していたが、今後は事業所単独で、2ヶ月ごとの開催を予定しているので期待したい。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加して頂いて情報を交換したり、事故報告の際はアドバイスをいただいている。不明なところは都度確認するようにしている。	町の担当者とは、事故報告や相談事など常に連携を密にし、協力体制を構築している。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はおこなっていない。夜間は防犯上必要なために玄関の施錠はしているが、日中は自由に玄関から出入り出来る状態にある。	職員は毎月1回、母体法人で実施している研修会に参加し、身体拘束によって利用者にも与える身体的、精神的苦痛などを学び共有認識を図っている。管理者は、日常のケアの中で注意や指導に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会に積極的に参加できる体制を整え虐待に対して学ぶ機会を作る。ケアに対し疑問な点が生じた時はカンファレンスで話し合い解決する。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今度、外部の研修会に参加をしたり、施設内でも話し合いをして制度について学ぶ機会を作る。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は介護支援専門員が個室で説明を行いプライバシーに配慮している。契約内容等疑問なところがないか都度確認しながら納得して頂きながら進めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議でご家族に参加して頂いたり、ご家族が来所された時は要望等お聞きしている。	家族などの意見、不満、苦情の受付先を明示したチラシを事業所内に提示したり、面会時に声かけするなど積極的に聴く努力をしている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	今後、意見交換の機会を作り、職員の意見を反映させていきたい。	スタッフ会議の中で、職員の意見によって居室のベットの位置を変えたり、入浴の仕方、時間の調整など意見を聴取し、最良の方法を話し合い支援に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格手当や研修に係る費用等事業所で負担している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員個々の経験など踏まえ研修会に参加をしている、今後職場内で勉強の機会を作る。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ケア会議や地域の研修会に参加し近況報告や情報交換等している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前にアセスメントを行いスタッフ間で話し合い、本人の意向や身体面や精神面等不安なところを確認しケアにあたる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前にご本人やご家族から希望や不安なところを話し合い契約時には、サービス計画書でサービス内容を確認している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	希望や不安な事を把握し、アセスメント結果を踏まえスタッフ間で話し合い、優先順を見極めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と一緒に食事の準備や洗濯物をたたむ等共に過ごす時間を作っている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会に来られた時など、最近の状況や様子を伝え、ご家族からも今の状況などケアについて意見を聞いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人の面会時にはご本人が楽しみにしている事等を伝え、次回も面会に来ていただくように心がけている。買い物はご本人の馴染みのあるお店で買い物等するように心がけている。	母体医院に通院の知人、友人が多く立ち寄り、再訪を促している。事業所の車での送迎で馴染みの商店での買い物や、美容室を利用するなど、継続的な交流ができるよう支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	他入居者さんとかかわりが少ない入居者さんには職員が間に入ったり、声掛けを多くすように心がけている。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された方への関わりはない、今度は退去された後もその後の様子や、相談に応じるなどして関係を大切にしていける。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	初回や、介護認定の更新時期に合わせ必ず、アセスメントを実施し心身の状況を把握して、ご本人の意向も大切にしている。	家族から生活歴を聴き、一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努め、日々の行動や表情を汲み取り支援をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前にご本人、ご家族から聞き取りをして把握に努めている。入居された後もご本人からや面会時にご家族からお聞きし、サービス計画に活かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日の様子や状態の変化など申し送り時に伝え職員間で確認している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要の関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々のケアの中で気付いたことや定期的に行っているモニタリングの結果を踏まえ必要に応じて介護計画を変更し反映させている。	職員は日々の関わりの中での気づきやアイデアをケアプラン会議に活かしている。医師の意見と家族の要望を取り入れて、担当者が現状に合った利用者主体の介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々個別にケアをした内容は介護記録に記入している。気付いたことなどを申し送りの時などで職員間で話し合っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	気付いたことや状態の変化等職場内の看護師に伝え必要に応じ医療機関に相談している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の美容室や商店等を利用し顔馴染みのある人とのやり取りがあり、地域との繋がりを大切にしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	運営母体である医療機関が隣接しているため、主治医との連携は密にとれている。状態に変化があれば直ぐに先生にきていただける体制になっている。	母体法人の医療機関が隣接しており連携がある。看護職員が健康管理に努め、複数の医療機関との提携や24時間体制を整えているため、家族に安心感を与えている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	気付いたことや状態の変化等職場内の看護師に伝え必要に応じ医療機関とやり取りしている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者が入院した際はお見舞い等を利用し担当の看護師から情報を頂いている。日頃から相談したり、アドバイスをもらっている。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時にご本人様の状態が大きく変わった場合や看取りに関する事をお聞きしている。	事業所は「看取りに関する指針に対する同意書」を作成し、利用者の尊厳に十分配慮しながら、終末期の介護について心をこめて行うことを明確にしている。契約時に説明しているが家族の記名、捺印は得られず、職員と方針を共有していない。	看取りを経験していない事業所であるが、同意書に家族からの記名と捺印を得て、事業所としての方針をチームで話し合い、体制を整える努力を望みたい。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	対応マニュアルを作成し急変や事故発生時に備えている。消防の方を招き救命救急の講習を定期的に行っている。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的防火訓練を実施し、非常時に備えている。	消防署の協力で年2回、日中と夜間想定訓練を実施し、終了後は消防署職員から指導を受け、反省点などを話し合っている。	職員だけの誘導の限界を具体的に確認し、地域住民との連携を図り、支援体制の整備に取り組むことを望みたい。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉掛けについて話し合いをしたり、接遇に関しての研修会にも参加をしている。	利用者一人ひとりの人格を尊重し、言葉の内容や語調などに配慮している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定が難しい方には会話の中から思いを察したり、言葉がけを工夫したりご本人に決定して頂けるように努めている			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来るだけ起床時間や食事の時間等個々のペースに合わせている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えの時はご本人に選んでいただき本人が決定できるような声掛けをしている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	本人に適した食事形態で召し上がっていただいている。食材の下ごしらえやテーブル拭き等協力して頂きながら準備をしている。	栄養士の有資格者がおり、状態に合わせて、きざみ食や、ペースト状などに工夫し提供している。利用者は芋の皮むきや茶碗拭きなどできる事を一緒にしており、音楽を流すなど楽しい食事に配慮している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は栄養士が作成し栄養バランスのとれた食事を提供している。食事、水分摂取量を把握し個々に応じた対応をしている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後個々の状態にあった口腔ケアを行っている。就寝前には洗浄剤に浸ける等して清潔の保持に努めている。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々に排泄管理表を作り把握している。支援に関しては常に改善の可能性を視野に入れ話し合いをしている。	排泄管理表の利用で排泄パターンを把握し、声かけやトイレ誘導をしている。改善の可能性のある利用者には、2人の職員が付き添い自立に向けて支援をしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲食物に関して、好みに合わせ野菜ジュースやヨーグルトを勧めている。レクリエーションで運動の機会を作っている。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週3回日中に入浴日を設けている。時間に関してはなるべく本人のタイミングに合わせてお誘いしている。それ以外でも個々の都合等に合わせ入浴をいただいている。	広い浴槽に木製の段や洗い場の手すりなど、安全を考えて工夫がされており、週2～3回時間制限なく入浴している。拒否傾向のある利用者は、担当職員や同性介助に変えるなど個々に添った支援をしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	午前午後とご本人からの希望や必要と思われる方には自室で休んで頂いている。今後は夜間の安眠に繋げる工夫をする。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	状態に喧嘩があった場合は直ぐに看護師に報告し対処している。状態の変化は記録しスタッフ間で共有している。薬の説明書はファイルに綴じ各自で確認できるようになっている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	カンファレンスで個々に合った家事のお手伝いやカラオケ、風船バレー、好みのおやつ等用意し、役割や楽しめる機会を提供している。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職場内にいる看護師に気付いたことや状態に変化が見られた時は報告している。必要に応じ医療機関を受診している。	事業所周辺の散歩で山菜を採ったり、季節に合わせて町内の公園でのお花見や、大沼公園へのドライブなど、本人の希望により戸外に出掛ける支援をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望や管理能力等見極め、お金を所持して頂いている方もいます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて事務室にある電話を使って頂いている、手紙に関しても希望に応じスタッフが代わりに郵送のお手伝いをしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂のテーブルに花を置いたり、廊下や掲示板に行事で行なった写真等を貼り、散歩の途中で見たり入居者さんとのコミュニケーションに役立っている。	事業所内は清潔感があり、職員の紹介と、利用者の外出時の写真が飾られ、折り紙の朝顔が季節を感じさせている。不快な臭いや音もなく、居心地のよい共有空間づくりに配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下にソファを置き散歩の途中や一人で過ごしたい時などに利用してもらっている		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自室には馴染みのある物、写真や小さめの仏壇等、ご本人やご家族と相談しながら決めて、安心して暮らせる環境に努めている。	居室は家族の写真が飾られ、家族と相談して在宅当時に使用していた裁縫用具や日用品を用意するなど、居心地の良さに工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	アセスメントで出来る部分出来ない部分を把握し介護計画にも反映さ自立を促している。		